

国立病院機構長崎川棚医療センター診療部長 木村博典先生より「地域の医療の質を高めるためのネットワークを目指して～あじさいネットの取り組みから」と題してお話をいただき、今後の地域医療ネットワークが目指すべきものを教えていただきました。このお話しを受けて、シンポジウムでは地域医療のつながりをテーマに、別府のゆけむり医療ネット、臼杵のうすき石仏ねっとの代表者、福岡県の宗像医師会訪問看護ステーションによるむなかた在宅医療連携システム、調剤薬局の立場から別府市で行われた電子処方箋実証事業について、それぞれの立場から地域連携を目指す取り組みをお話しいただきました。ランチョンセミナーではコミュニケーションの重要性を落語家の上爛家 勘米さんに「落語から学ぶコミュニケーション・表現術」のテーマでお話しいただきました。29題と多くの一般演題の発表があり、充実した学術集会となることが出来ました。ただ、発表時間が非常にタイトとなり、ご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。地域における様々なつながりを大切に、地域で完結する医療を目指す重要性を再確認した一日でした。

最後に、学術集会の開催にあたりご協力いただきましたみなさま、そして円滑な開催にご尽力いただいた国立病院機構別府医療センターの職員の皆さんに感謝の意を表します。

#### 第4回群馬県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構沼田病院院長 前村道生

2015年2月22日(日)に群馬県公社総合ビルで第4回群馬県支部学術集会を担当させていただきました。時期的に降雪が憂慮される沼田ではなく、敢えて第2回の会場と同じ前橋で開催させていただき、160名あまりの参加を戴きました。厚労省が地域包括ケアシステムの構築を推進していることを踏まえ、「医療のコンビネーションプレイ」をテーマにチーム医療を中心とした内容に統一しました。特別講演は高崎健康福祉大学の棚橋 さつき教授にお願いして、「地域特性に即した退院支援の取り組み」と題し、群馬県全体での退院支援活動の取り組み状況に関して分かりやすくお話しいただきました。「高齢化社会におけるチーム医療のあり方」と題したシンポジウムには、医師、看護師、薬剤師、理学療法士に加えて群馬県庁の方にも行政の立場でご参加いただき、群馬県における今後の地域包括ケアシステムの構築に関しても多方面から意見交換できたように思います。皆様のご協力が無事に開催できたことに深く感謝申し上げます。

#### 第14回長野支部学術集会

学術集会会長：長野県立須坂病院病院長 寺田 克

2015年5月16日(土)信州松代ロイヤルホテルを会場に、メインテーマ『地域包括ケアとチーム医療～地域医療の活性化を目指して～』を掲げ、第14回日本医療マネジメント学会長野支部学術集会を開催しました。職種を超えた情報交換の場として県内全域から約430



会場風景

名にご参加いただき、有意義な学術集会となりました。学術集会では、特別講演として東北大学大学院教授 賀来満夫先生に「感染症クライシスへの対応ー地域ネットワーク構築の重要性とその意義ー」、招請講演として、国際医療福祉大学大学院教授 武藤正樹先生に「2025年へのロードマップ～地域医療構想と地域連携～」と題しご講演いただいたほか、エーザイ株式会社協賛によるランチョンセミナーとして認知症を地域で取り組んでいる群馬大学保健学科教授 山口晴保先生から「地域医療連携：認知症の実践医療と初期集中支援チーム(前橋市)・認知症治療センター」をテーマにご講演いただきました。

また、一般演題では、地域包括ケア病棟や地域連携に関する演題のほか、在宅での看取りの報告、安全や医療現場における改善の取り組み、人材の育成に関する演題など20演題が報告され、活発な意見交換がされました。

#### 第12回山形県支部学術集会

学術集会会長：山形県立中央病院院長 後藤敏和



会場風景

第12回山形県支部学術集会は、山形県立中央病院が担当として、2015年7月11日(土)山形市保健センター大会議室・視聴覚室において開催され、これま

でで最多の323名のご参加をいただきました。

今学術集会のメインテーマを「医療人の確保と人材育成」としております。少子高齢化時代の到来が確実視される中、医療機関の最重要かつ喫緊の課題でもあり、今後の病院経営や地域の医療体制に直結する重要な課題との認識から設定されました。

学術集会では、特別講演として福井医療短期大学教授の橋 幸子先生から、「PNSの特徴と人材育成」と題してご講演をいただきました。PNSとは、パートナーシップ・ナーシング・システムの略で、平成21年に福井大学医学部附属病院で開発された看護体制であります。特徴としては、ベテラン職員と若手職員が2人一組となり安定的な看護の提供や看護経験の伝承による人材育成効果などが挙げられ、画期的なシステムとしてご紹介いただきました。

シンポジウムでは、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士の異なる職種4名からメインテーマと同じ